

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を図り、家庭的な雰囲気の中でその人らしくありのままに、安心して暮らせる第二の我が家」と理念に掲げ、「元気」・「笑顔」をモットーに行えるよう各棟名にしている。	○ スタッフ間で話し合い理念を作っている。異動や新人スタッフ等においては、説明し理解得られている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼にて理念の唱和を行い、全スタッフ理解している。また、地域との関わりを大切に利用者主体のサービスの提供を目指している。	○ 毎朝の朝礼での唱和行っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念に「地域との交流」を加え、ご家族や地域の方にも理解して頂けるよう広報誌へ掲載し、地域のイベントへの積極的参加をしている。また、玄関やホールに理念を掲示している。	○ 広報誌は新郷村全村民へ配布している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	○ 地元の保育園や小学校へ訪問したり、朝の早起き掃除や村祭りなどの地域のイベントへ積極的に参加し交流を行っている。(今年度は新型インフルエンザの流行にて地域のイベントへの参加は見合わせた)認知症について理解できるよう広報誌へ掲載してはいるが、直接地域村民との交流の場はもてていない。	○ 地域のイベントへの参加だけではなく、こちらへも足を運んでいただけるような企画を検討したい。また認知症の理解を得られるような働きかけをさらに検討したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について全スタッフにて取り組み理解得られている。外部評価についても、全スタッフにて話し合い改善に取り組んでいる。	全スタッフにて自己評価に取り組み、外部評価についても話し合っている。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回企画し、外部評価の結果報告と改善に向けた取り組みについても報告行っている。また意見交換も行いサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議での外部評価の結果報告とご家族へも結果報告行っている。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当との行き来は少ないが、入退居時の相談等行い連携は図られている。また運営推進会議時に意見交換や相談しサービスの向上に努めている。	入退居時の相談や意見交換行いサービスの質の向上に努めている。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホームの勉強会にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について年に1度は行い理解できていると思われる。	グループホーム1号館・2号館合同にて行っている。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの勉強会にて高齢者虐待防止について年に1度は行い理解できていると思われる。またマニュアル作成し、取り決めている。	グループホーム1号館・2号館合同にて行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>契約書は2部に同意のサインと捺印を頂きご家族と施設とで保管している。</p>
11	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>利用者からの意見等を引き出せるスタッフと引き出せないスタッフとあり、日頃からの関係づくりや利用者の視点で考えられるように働きかける。</p>
12	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>定期的にご家族に報告している。</p>
13	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>ご家族とスタッフとの関係づくりを見直し、理解と協力が得られるような働きかけをし、サービスの質の向上に努めていく。</p>
14	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>全スタッフにて話し合い意見交換をできるようにしている。</p>
15	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>急な休みに対しては、公休スタッフに協力を得たり、系列の事業所に相談している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動時にはお別れ会や歓迎会を行い利用者への影響を最小限にできるよう配慮している。また異動スタッフへの教育や引き継ぎを行っている。		業務をしながらであるため多少時間はかかるが今のところ利用者の混乱等は見られていない。
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の能力別に合わせた研修を受講できるよう配慮し、受講後は伝達講習を行っている。		月に1度のグループホーム会議にて伝達講習を行っている。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加することで、同業者との交流を図れる機会を作り、情報交換等を行うことでネットワークを広げサービスの質の向上に努めている。	○	研修会の参加以外にも交換研修等を検討してみる。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面談を行い、悩みやストレスに関しアドバイスできるようにしている。また、飲み会を企画し気分転換を図っている。休憩場所が職員室であるためくつろげる場にはなっていないと思われる。	○	休憩場所の確保についての意見は出てはいないが、空間づくりを検討する。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力や実績に対する評価は年に2回行っている。また資格手当も設けており、資格取得に向けスタッフへ技術や能力の向上に働きかけている。		評価を年2回行っており、その際の面談時には成果を伝え意欲向上につなげている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談時、ご家族の悩みや相談を聞き、ご家族や利用者の希望やニーズを把握し、思いに添えるようつとめている。また信頼関係を築き生活を有意義に出来る様努めている。	いつでも相談してもらえるよう連絡を取れる体制を整えている。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族のニーズを踏まえ、グループホームで対応できることを実行している。	生活の場が変化することの不安に対する配慮に重点を置き、グループホームの環境に慣れる様考え対応している。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、ご家族の希望やニーズを把握し、利用者らしく生活できるようにサービスの提供を行っている。	日頃の気づきを活かしたサービスを提供している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の能力や意欲に合わせ、計算を行ったり、生活を利用者と共に決めている。またその時々感情を受け入れ、合わせた対応を行っているが、信頼関係を築けているスタッフもいるが、対応は人それぞれになっている。	○ 認知症の理解を深められるよう、勉強会を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面談時や面会時、行事参加時など情報交換を行い、ご家族との関係づくりをしている。		遠方のご家族や面会の少ないご家族には、定期的に手紙や電話連絡をしている。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者ご家族との関係が途切れないよう、お互いの思いに配慮し、面会時や電話連絡時は、さりげなく情報交換をしている。		ご家族参加のイベント企画している。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人の面会見られる。希望時には馴染みの場所へドライブや外出している。		行事や病院受診時、晴天時にドライブなど行っている。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝の体操や食事時、利用者どうし声を掛け合い誘い合っている。また、なかの良しあしに合わせ、席をさりげなく配慮したり、孤立しないように見守りし、フォローも出来ている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居になっても今後についての相談や対応に考慮している。		ご家族や利用者の不安を和らげるような対応に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の気づきを申し送り、利用者やご家族の思いや希望を把握できるようにしている。	申し送り時や月一回の棟会議などで行っている。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面談時に情報の収集をし、家族や利用者の意向に添えるように記録し把握している。情報収集に関しては、十分プライバシーに配慮している。	情報収集にセンター方式を採用している。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者を観察し、気づきを記録や申し送りなどで行い、把握している。また、日頃の生活で色々試し、出来る事や分かる事の見極めをしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は日頃の様子観察や、棟会議などでの情報を取り入れ、利用者らしい生活を送れるようにしている。また利用者ご家族の思いや希望に添えるように、担当者と計画作成者、ホーム長とで作成している。	担当者会議行っている。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しや状態の変化時などその都度行っている。介護計画作成時には、ご家族や利用者の思いも取り入れ、作成し同意と捺印を頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に用意しており、介護計画を作成し実行している。その際には利用者の状況や気づきを記録に残し全スタッフが共有できるようになっている。また介護計画見直しの際には、記録を活用している。		利用者の状況と共に記録に残している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・ご家族の要望があった際は、対応ができる体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署や地域の方々の協力を得ながら支援している。		地域イベント等に参加し、グループホームが少しずつ理解されている。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理容院と2カ月に1度の契約をし散髪行っている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の希望が今のところなく行っていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>ご家族の都合がつかない時には、スタッフが付き添い行っている。</p>
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症専門医の医療機関を利用していない。</p>	
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療機関利用時には、看護職員に声をかけて頂いている。グループホームへは看護職員の人員配置はないが、系列の事業所の看護職員には相談できる体制は整っている。</p>	<p>系列の事業所に相談行っている。</p>
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>体調不良時にて入院になっても、入院期間が2週間以内であれば居室をとっておける体制は整っている。</p>	<p>ご家族や医療機関との情報交換は密に行っている。</p>
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期に対応できる体制は整っていない。健康管理を行い急変時の対応については、ご家族と相談し決めている。</p>	
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期には対応していない。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによる環境の変化によるダメージについてはスタッフ理解している。ご家族や関係者との情報交換を密に行い、不安を最小限に出来るよう努めている。		事前に面談行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーや個人情報、対応に関し勉強会行っているがスタッフによっては声掛けや対応に配慮欠け、不適切な対応をしている。	○	認知症の理解を深められるよう勉強会を行う。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意思を表せるような聴き方や問いかけを行っている。また利用者と話し合いどうするかを共に考え利用者に決めていただいている。		利用者と共に考え利用者に決めていただいている。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた対応を行うよう説明行っているが、スタッフによっては業務が優先になっている。	○	利用者の視点で考えられるような勉強会を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の個性や好みでその日の衣服を選んでいる。意思を表せない利用者に対しては選択できるようにしている。		行事やイベント時にはいつもと違う衣服を選んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士によって立てられており利用者の希望にその都度対応はできていないが、誕生会には個々の好きなものを提供している。食事はスタッフ共に食べており、食後は食器洗いや食器拭きを共に行っている。		ゆっくりと楽しみながら食事ができるように献立の説明や会話をもち、後片付けは利用者と共に行っている。
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の希望に添えるような体制は整っている。おやつ等に関しては、生ものや自己管理できない利用者には相談しスタッフの管理でもよいかの確認をしている。		食が進まない時にはご家族の協力を得て、食事時に好きなものを個人のお膳に出しており、周りにも配慮している。
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排尿のパターンを把握し、サインを見逃さないようにトイレへ案内行っている。その際にはプライバシーの配慮も行っている。		布のパンツにパット使用し、トイレに案内行い排泄の記録も残している。
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り利用者の希望に添えるように努めている。入浴の際には今までの習慣や出来ることを奪わないようにサポートしている。入浴を希望しない場合には無理強いはしないが、3日に1度の入浴を勧めている。		行事や病院受診、予期せぬスタッフの病欠などにより希望に添えないこともあるが、その際には事情を説明することで利用者の理解得られている。
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々のタイミングにて休めるようにしており、体調管理にも配慮している。また個々の睡眠観察や日中の活動量の観察も行っている。		利用者の習慣に合わせてパジャマに着替えたり上着を1枚脱いだりと対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かし、意欲を引き出しながら個々にあった役割や余暇時間の提供をしている。		意欲が高まるような声掛けを行い、笑顔を引き出している。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは利用者にとってお金の大切さを理解していると思われる。外出時や買い物時には利用者の能力に応じ自分で支払えるように配慮している。お金の管理に関し利用者、ご家族と話し合いにて自己管理の金額を決めている。		高額な預かり金に関しては金庫に管理している。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事やドライブなどその日の状況に臨機応変に対応し、利用者の希望に添えるように努めている。		ドライブ時は利用者と相談して決めている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば外出の支援に添えるような体制は整えている。今のところは希望がなく、行事でご家族と一緒に出かけられる企画を立てている。		行事企画時ご家族に案内を出している。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時にはその都度対応し、プライバシーにも配慮している。		ご家族からの手紙読めない場合は居室にて読んで伝えている。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めず、面会時には利用者と面会者とゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。また希望時には宿泊もできる体制は整っている。		面会時にはお茶を出している。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している。やむを得ず行わなければならない時には、ご家族の了解を得て経過観察し、記録に残す体制が整っている。		定期的に勉強会を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		鈴の音で確認をしている。
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		ホールから離れる際には一言添え、理解得られてからその場を離れている。
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		利用者と話し合いにて決めている。
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		定期的に勉強会を行っている。
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		定期的に勉強会を行っている。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		災害時に地域に方々の協力を得られるよう、地元の消防団に施設見学していただいた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況によって起こりうる可能性のリスクは事前に報告し対策も伝えている。また、予期せぬ出来事でも起こった事故に関しては、その都度ご家族に報告している。		スタッフで話し合い対策を立て再発を防止している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者個々に把握し、体調不良や特変時の状態の変化に気づけるよう日頃から観察し、記録に残している。また、状況によっては医療機関に相談、受診を行っている。		申し送りを行っている。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服箱に個々の内服の効能や錠剤の内容を写真で貼り付けており、誰でも確認できるシステムを作り対応している。また、内服確認を行っている。定期受診時には主治医に報告し、内服変更時にはご家族にも報告している。		内服薬は夜勤者が朝、昼、夕と翌日の分を用意し、隣の棟の夜勤者にも確認している。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	スタッフは便秘の引き起こされる原因について理解できていると思われる。日中の活動量や水分量等の健康状態の把握をし、安易に下剤の使用に頼らず自然排便に努めている。		排便が無いことが続くようであれば、主治医に相談している。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清掃の必要性について、スタッフは理解できていると思われ、利用者の個々の習慣や能力に応じた対応をしている。夕食後には義歯洗浄剤にて義歯の手入れを行っている。		義歯洗浄剤での洗浄中はスタッフ管理し、洗浄剤をきちんと洗い流してから本人へ戻している。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にて献立られ、1日の総カロリーの平均は1600~1700kcalになっている。1日の水分量は1500mmℓを目指している。食事量や水分量は記録に残している。		利用者の状況に合わせてながら、観察行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染に関するマニュアル作成し、定期的に勉強会を行い周知できている。感染防止のため玄関にはマスクと手指消毒剤を用意している。		感染に関する情報は玄関や台所、手洗い場に掲示している。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理に関しマニュアル作成し、チェック項目にて実行できている周知できている。食材に関し決められて配送されており問題ない。		衛生管理表にて毎日チェック実行している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物をフェンスで囲まれているが為、玄関周りは家庭的な雰囲気を出せるように工夫している。近隣の方の出入りは少ない。	○	立ち寄って頂けるようなイベントなど検討する。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は利用者が不快にならないようにテレビや音楽の音、スタッフの音量にも配慮している。また、照明も日差しを取り入れ適切な明るさにし、季節感を感じられるような装飾を行っている。		その時々に応じた対応を行っている。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや畳を用意し、廊下には休める椅子を置いている。利用者がくつろぎ、団らんしている様子も見られている。		利用者個々にくつろぎ、時には転寝していることも見られる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時や面談時には馴染みのものを持ち込んで いただけるよう説明を勧めている。また、居室作り は利用者と共に行っている。		ご家族からの協力は少ないが、余暇時間での作品 や買い物等で過ごしやすく、落ち着ける居室作り をしている。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	悪臭や空気のだよみ等なく、定期的に換気行い ホールや居室に室温計を設置し、利用者に関 わせた適切な温度管理ができるようにしてい る。冬期は加湿器を使用している。		冷暖房の調節のほか衣類調整も行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた環境に努め、転倒など危 険につながる原因は回避できるようにしてい る。廊下やトイレに手すりは用意されているが、利 用者に合っているかは疑問であるが、補助具は利 用者の状態に応じたものを使用している。		居室のベッドの高さやタンスの位置、物干しの位 置や高さ、歩行器や老人カー、車いすを進行方 向にするなど使用しやすく設置している。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者個々の居室へ表札や共同生活場の表示をし ており、利用者の混乱やトラブルはなく、適に対 応できていると思われる。		利用者個々に大きな表札を作り、トイレや台所な ども表示している。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	敷地内に畑があり、野菜や花を植え、収穫をし ている。また、天気の良い日は屋外にて体操や食 事、散歩している。		収穫した野菜はおやつや食事時に提供し収穫を喜 んでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の行事にはほとんど参加し、少しは顔なじみの関係は出来ていると思われる。今年度はインフルエンザの流行により外出をひかえたが地元の保育園や小学校からのイベントへのお誘いを頂いている。また、行事の参加によって声をかけてくれるご家族や友人、知人も増えてきている。世間で言う行動障害もグループホームでの生活に慣れることで、少なくなってきた。利用者の居場所作りと役割を持つことで、生きがいや利用者らしさを取り戻せるように今後も努力していく。